



平成22年度

# Jミルク事業報告資料



社団法人 日本酪農乳業協会



## ご挨拶

会長 本田浩次

この小冊子は(社)日本酪農乳業協会(Jミルク)の諸活動を会員、賛助会員及び関係の皆様へ報告するための資料です。

平成22年度には、総合部会と改革委員会における検討を踏まえて、調査研究と科学的効用の専門家向けの広報、学乳事業の推進及び酪農乳業の情報共有化のための事業に集中する基本的な改革に取り組んできました。今後とも、この方向に沿って、Jミルクの使命の達成に努めていくこととしておりますので、会員、賛助会員及び関係の皆様のご指導、ご協力をお願いいたします。

## 目次

<b>1. 調査・研究活動</b>		<b>4. 学校給食関連</b>	
(1)牛乳・乳製品機能性実証調査	3	(1)TOSS牛乳教育への取り組み	12
(2)牛乳栄養学術研究	3	(2)学校給食の牛乳料理講習会・研修会の開催	12
(3)調査	4	(3)HACCPに準ずる衛生管理助言事業	12
(4)「牛乳乳製品の輸出促進」のための調査検討	4	(4)学乳供給事業実施主体への活動支援事業	12
<b>2. 牛乳・乳製品の科学的効用の広報</b>		(5)学校給食用牛乳供給支援事業	12
(1)国際学術フォーラム	5	(6)ホームページ向け資材等の拡充	12
(2)メディアミルクセミナー	6	(7)セミナー等向け資材の提供	12
(3)医学会セミナー	7	<b>5. 酪農乳業の共同の取り組みと情報の共有化</b>	
(4)牛乳市民講座	8	(1)生乳需給見通しの策定・公表及び情報の共有化	13
(5)栄養士講座(牛乳に関するセミナー)	8	(2)需要期・不需要期対応	13
(6)牛乳・乳製品摂取とメタボリックシンドロームに関する横断的研究結果の発表	9	(3)原料乳取引の推進	13
(7)別冊メディカル朝日の発行	9	(4)ポジティブリスト制度に対する酪農乳業の一体的取り組み	14
(8)乳幼児期の食育リーダー講座	9	(5)生乳検査精度管理認証制度の運営と効率的検査体制に向けた取り組み	14
<b>3. 広報・広告活動</b>		(6)乳製品取引市場の運営	15
(1)牛乳・乳製品の消費、普及の推進	10	(7)集約的かつ実践的な組織活動の実施	15
(2)牛乳・乳製品利用料理コンクール	11	(8)ホームページ	15

# 1. 調査・研究活動

■メタボリック・シンドローム改善に牛乳・乳製品が果たす役割について研究を開始した。

## (1)牛乳・乳製品機能性実証調査

No.	テーマ	研究機関 氏名
1	牛乳長期摂取によるメタボリックシンドローム改善評価試験	東京大学 大橋靖雄 女子栄養大学 上西一弘 健康科学大学 折茂肇 女子栄養大学 石田裕美 国立長寿医療センター 細井孝之 京都大学 田中司朗 東京大学 門脇孝
2	牛乳・乳製品と生活習慣病危険因子に関する検討	筑波大学 田中喜代次
3	牛全乳中性ステロイドホルモン濃度に及ぼす分娩日数、受胎の有無、飼養環境の影響調査	鹿児島大学 小島敏之

## (2)牛乳栄養学術研究

牛乳・乳製品の栄養に関する学術的研究を推進するため、専門家に研究テーマを募集、牛乳栄養学術研究会(選考委員:医学者6名、食品科学者1名)において選考の上、以下の14テーマについて研究委託した。

No.	テーマ	研究機関 氏名
1	妊娠中の母親の食事パターンと生まれた子のアレルギー発症との関連	福岡大学 三宅吉博
2	牛乳極性脂質の脂質代謝に及ぼす影響	北海道大学 宮下和夫
3	牛乳に含まれるアディポサイトカインの定量と機能検索	三重大学 青木直人
4	ランダム化比較試験によるカルシウムの骨粗鬆症予防効果の解明	新潟大学 中村和利
5	Th 1 7 細胞機能におよぼす牛乳・乳発酵食品摂取の影響	広島大学 田辺創一
6	小児期における牛乳に対する免疫応答の適切評価ならびに特異的経口免疫療法が牛乳乳製品摂取および成長発達に与える影響	浜松医科大学 大関武彦
7	高リン食起因の腎臓機能障害リスクを軽減するホエータンパク質の効果の検討	東京大学 中井雄治
8	牛乳由来の新しい精神的ストレス緩和ペプチドの作用機構に関する研究	京都大学 大日向耕作
9	乳成分による肥満モデルマウスのインスリン抵抗性改善効果に関する研究	大妻女子大学 青江誠一郎
10	ストレス誘導アレルギー性腸炎モデルにおける発酵乳酸菌の抑制効果	東京大学 戸塚護
11	牛乳摂取が食後血糖及び食事誘発性熱産生(DIT)に与える影響に関する研究	神奈川県立保健福祉大学 中村丁次
12	アジュバント的媒体としての乳機能の探索と開発	京都大学 谷史人
13	アドヘシン酵素の網羅解析と酵素活性を指標とした高腸管付着性乳酸菌の新規スクリーニング法の確立	宮城大学 木下英樹
14	パーソナリティ特性からみた牛乳摂取習慣	人間総合科学大学 藤城有美子

# 1. 調査・研究活動

■牛乳・乳製品の小売情報、輸出戦略について調査した。

## (3)調査

### 牛乳乳製品 小売情報収集と提供

牛乳乳製品の小売情報について、「インテージSRI情報」及び「日経POS情報」を収集し、JミルクHPに公表し、情報提供した。



インテージSRI情報



日経POS情報

## (4)「牛乳乳製品の輸出促進」のための調査検討



国産チーズの中国国内でのサプライチェーン戦略策定のための調査

平成22年度は日本産チーズの輸出を促進のための「海外市場実証調査検討委員会」を設置し、調査・検討を行った。

<調査内容>

- ①国産チーズの中国国内でのサプライチェーン戦略策定のための調査
- ②中国向け製品戦略策定のためのチーズの受容性と評価調査

上記2点を課題として調査し、2/24の第3回の検討委員会で最終取り纏め案の検討を行い、ホームページで公表した。



中国向け製品戦略策定のためのチーズの受容性と評価調査

## 2. 牛乳・乳製品の科学的効用の広報

■国内外の研究者を招いて、牛乳・乳製品に関する学術講演を行った。

### (1)国際学術フォーラム

医学・栄養学等研究者を対象として国際的な牛乳・乳製品に関する知見等をテーマとする第25回国際学術フォーラムは、「骨と筋肉の健康に及ぼすメカニカルストレスと栄養：最近の進歩」をテーマに、各分野の専門家による学術講演を行った。また後日報告書を作成して関係者に配布。

・開催日：平成22年12月3日（土） ・場所：コクヨホール（品川）



第25回国際学術フォーラム

#### 演題、講師及び発表要約

##### 学童期における筋骨格系の発達に及ぼすスポーツ食育



木村典代先生

##### 木村典代(高崎健康福祉大学健康福祉学部 教授)

学童期にはあらゆる食に関する健康上の問題が山積している。日本人は栄養素の主な利点を認識しているが具体的な食情報を欠いており、これらの欠如は栄養素や食品に関連する健康問題にも関与している可能性がある。このため、身体活動によって引き起こされる食欲が食や栄養に対する関心を増加させ、食に対する意識や知識を高めようとする動機につながると推測し、スポーツや身体活動と食や栄養の知識を組み合わせた調査を実施し、その調査結果及びスポーツをする子供のパフォーマンスレベルを向上させるための栄養教育の実践例も紹介した。

##### 食物タンパク質がレジスタンス運動後の骨格筋タンパク合成に及ぼす定性的・定量的影響



Stuart M. Phillips先生

##### Stuart M. Phillips(カナダ マクマスター大学運動学科 教授)

筋タンパクは絶えず変化し続け、合成と分解を繰り返している。タンパク質含有食物を摂取すると、筋タンパクをはじめとする様々なタンパク質の合成速度が増す。このことは必須アミノ酸濃度の上昇が筋タンパク合成の増加を刺激するために必要である。乳製品由来のタンパク質はアミノ酸ロイシンを豊富にふくんでいることから他のタンパク質に比べて優れている。レジスタンス運動も筋タンパク合成の刺激という点で非常に効果的であり、レジスタンス運動とタンパク質の摂取は促進要因として重要となる。このため、様々な方式のレジスタンス運動と乳タンパクを中心とするタンパク質供給とがもたらす筋タンパク合成促進の相乗作用を重点に紹介した。

##### 宇宙飛行士の骨量減少と筋委縮対策



大島博先生

##### 大島博(宇宙航空研究開発機構 宇宙医学生物学研究室 研究領域リーダー)

ヒトの体は、進化の過程で1Gの地球重力に適した構造と生理機能を獲得してきたので、微小重力の宇宙では骨量減少、筋委縮などの身体変化が生じる。微小重力環境では、骨吸収が著しく亢進し、骨形成は抑制されるので骨量減少が生じ、骨折と尿路結石のリスクが高まる。これらの対策として、地上の骨粗鬆症の治療と同様に有人宇宙飛行士でも、骨量減少対策として十分なバランスのとれた栄養摂取、効果的な運動負荷、適切な薬剤投与について紹介した。

##### 非荷重と骨量制御のメカニズム



野田政樹先生

##### 野田政樹(東京医科歯科大学 難治疾患研究所 分子薬理学 教授)

骨の量は、骨形成に関わる骨芽細胞及び骨吸収に関わる破骨細胞の数並びに個々の細胞の活性、更にはそれを交合するにおけるサイトカインや細胞外基質、また全身性の統御機構としてのカルシウムホメオスターシスに関わるホルモン、新神経由来の因子等が関与することが知られている。一方、骨はメカニカルストレスに応答する器官であり、スポーツ選手のような荷重のかかる骨における骨量の増加や心血管系疾患、神経系疾患などによって起こる寝たきり状態の患者、無重力化における宇宙飛行士において見られる骨量の低下などがあり、形成側及び吸収側のメカニズムなどについて紹介した。

## 2. 牛乳・乳製品の科学的効用の広報

■ 情報発信を担うマスコミ関係者に、牛乳・乳製品の効用について情報提供した。

### 加齢における筋力と筋機能の重要性: 栄養最適化の役割



Robert R.Wolfe先生

Robert R.Wolfe(米国 アーカンソー大学医学部 レイノルズ老年医学研究所 教授)

身体組成は老化に伴い筋肉量が減少し、脂肪量が増加する方向で漸進的に変化する。加えて筋機能も低下する。高齢者の場合、全死因死亡率は機能テストのスコアの低さと直接関連している。また、筋肉の代謝機能の低下は糖尿病の主要因であり、筋力の低下と骨粗鬆症との間にも関連がある。したがって、筋肉量、筋力、筋機能の低下を回避することが、健康的に年齢を重ねるために不可欠である。加齢による筋肉の減少は、栄養不良、運動不足、インスリン抵抗性に起因しており、これら起因への解決策としてホルモン療法、運動、栄養などがあり、このことについて紹介した。

### (2)メディアミルクセミナー

健康面で話題となっているテーマや研究成果を報道関係者に科学的情報として提供する「メディアミルクセミナー」を3回開催した。また、その内容はそれぞれニュースレターとして作成し、関係者及びメディアに配布した。その結果、多くの新聞や雑誌において記事、掲載された。

・場所: 東京 大手町サンケイプラザ

メディアミルクセミナー  
ニュースレター



### 第23回メディアミルクセミナー

「牛乳を飲んで歯を健康に

～歯を健康に保つための骨づくりと栄養摂取法について～

- ・平成22年6月4日(東京 大手町サンケイプラザ)
- ・健康科学大学 学長 折茂肇先生



折茂肇先生

骨格の骨量が低いと歯周骨の消失と歯の損失につながる可能性がある、また骨粗鬆症の患者は歯の数が少ない傾向があるなど、歯の健康と骨の健康とは密接に関連している。歯周病は複数の遺伝要因、喫煙、ストレスなどの生活習慣が発症と進行に関与していることから、生活習慣病の一種であり、肥満、糖尿病・動脈硬化などと密接な関係がある。牛乳・乳製品の摂取は歯周病に対し有益な効果をもたらし、予防にも効果がある。骨粗鬆症の予防に牛乳・乳製品の摂取が非常に大切であることは、国際的にもコンセンサスを得ているなかで、日本では骨粗鬆症が原因となる骨折が増加している現状、脳血管疾患に続き寝たきりの原因の第2位となっている現状があることなどから、さらなる牛乳・乳製品摂取の重要性を紹介した。

この内容は日本農業新聞、読売新聞、へるすあつぷ21、医薬・健康ニュース等に掲載された。

### 第24回メディアミルクセミナー

「出生体重の低下は子どもの生活習慣病発症リスクが高くなる

～次世代までの影響が懸念される～

- ・平成22年10月20日(東京 大手町サンケイプラザ)
- ・早稲田大学 胎生期エピジェネティック制御研究所 教授 福岡秀興先生

近年、生活習慣病の素因は人生の初期、受精した時点から出生後の半年くらいに決まるという考え方「成人病(生活習慣病)胎児期発症説」が出てきている。日本では、低出生体重児(出生体重2,500g未満)が生まれる割合が10人に1人と高くなってきており、この状況は母体の子宮の中の栄養状態が変化していることが一つの要因であると考えられ、妊娠可能な年代の女性のやせの増加や劣悪な栄養状態の妊婦がいることが関係

## 2. 牛乳・乳製品の科学的効用の広報

■国民の健康管理を担う医師に、牛乳・乳製品の効用について情報提供した。



福岡秀興先生

している。これらの対応にはエネルギー量に加えて、カルシウム及び副菜不足の改善が必要となる。多くの疫学調査から、低出生体重との関連が明確な疾患として、虚血性心疾患、糖尿病、本態性高血圧症、メタボリックシンドローム、脳梗塞、脂質異常症、血液凝固能の亢進、神経発達異常が挙げられており、成人病(生活習慣病)胎児期発症説の視点からみると、育児によって生活習慣病発症リスクを下げることも可能ではないかと考えられる。このために、女性が幼少期から栄養摂取に気をつけやせず、成長に必要な栄養素をしっかりと摂取し、特に不足がちとなるカルシウムは牛乳・乳製品で摂取するよう紹介した。これらの内容は日本農業新聞、日刊酪農経済通信、毎日新聞、河北新報、京都新聞、山陽新聞、熊本日日新聞等に掲載された。

### 第25回メディアミルクセミナー

#### 「高齢者のタンパク質不足に潜むリスク

～栄養バランスのよい牛乳を摂って、健康寿命を延ばそう～

・平成23年2月8日(東京 大手町サンケイプラザ)

・人間総合科学大学保健医療学部長 教授 柴田博先生



柴田博先生

「高齢者が低栄養になっている」ということがよく聞かれるようになった。人間は老化すると体重や体脂肪が減り始めるが、そこに低栄養が重なると、体力、免疫力が低下し、身体機能の低下や疾病の発生を引き起し、老化が加速するリスクが高まる。日本は栄養の摂りすぎが問題視されているが、摂取エネルギーの数値からみても、飽食でも欧米型の食事でもない。BMIを標準に近づけようとするとエネルギー摂取量を抑える傾向が強まり、それが必要な栄養素がとれない状態を作る一因になっている。高齢者は、BMIが高い方が感染症に対する抵抗力が強くなるとともに老化が進まないことがわかっており、BMIを高く保つことが大切である。日本は欧米ほどの栄養過剰にはならず、脳血管疾患が減り、心血管疾患がそれほど増えなかったため、平均寿命が延びたと考えられる。老化の防止、介護予防の観点からも筋力を鍛えることが重要であり、筋肉量を維持するためにもタンパク質の摂取は不可欠となる。高齢者の低栄養を防ぐには多様な食品をバランスよく摂取することにあり、手軽に栄養分が摂れる牛乳乳製品の摂り方などを紹介した。

これらの内容は日本農業新聞、産経新聞、日刊酪農経済通信、全酪新報等に掲載された。

### (3)医学会セミナー

医師に対して牛乳・乳製品の新たな効用を科学的に広報する目的で、医学会にてセミナーを実施した。

#### 1) 日本体力医学会

平成22年9月16日

「牛乳・乳製品摂取とメタボリックシンドロームに関する横断的研究」

演者：田中司朗(京都大学医学部 附属病院探索医療センター検証部 助教)

座長：村田光範(東京女子医科大学 名誉教授)

#### 2) 日本肥満学会

平成22年10月2日

「牛乳・乳製品摂取とメタボリックシンドロームに関する横断的研究」

演者：上西一弘(女子栄養大学 栄養生理学研究室 教授)

座長：川田照雄(京都大学大学院教授)

## 2. 牛乳・乳製品の科学的効用の広報

■ 栄養指導を行う栄養士に、牛乳・乳製品の効用について情報提供した。

### 3) 日本公衆衛生学会

平成22年10月27日

「牛乳・乳製品摂取とメタボリックシンドロームに関する横断的研究」

演者：田中司朗(京都大学医学部 附属病院探索医療センター検証部 助教)

座長：伊木雅之(近畿大学医学部 公衆衛生学 教授)

### 4) 日本病態栄養学会

平成23年1月15日

「牛乳・乳製品摂取とメタボリックシンドロームに関する横断的研究」

演者：上西一弘(女子栄養大学 栄養生理学研究室 教授)

座長：門脇孝(東京大学大学院医学系研究科 糖尿病・代謝内科学 教授)

## (4) 牛乳市民講座



牛乳市民講座

食品としての牛乳の効用や安全性、正しい知識を、牛乳の専門家に科学的な根拠をもとに語っていただく「牛乳市民講座」を全国3都市で開催した。

主催：日本酪農科学会(日本学術会議協力研究団体)

共催：(社)日本畜産学会、(社)日本栄養・食糧学会、日本食品科学工業会、日本応用老年学会、日本骨粗しょう症学会、(社)全国学校栄養士協議会

後援：牛乳乳製品健康科学会議、他

昨年度の参加者は9会場で2,644人、今年度は3会場で1,666人と、多くの市民に参加していただいた。

内容は9ページの表参照。

## (5) 栄養士講座(牛乳に関するセミナー)

No.	開催日・場所	基調講演者	パネリスト
1	7月16日(金) 栃木／とちぎ福祉プラザ	北澤 春樹 東北大学大学院准教授	林 泰史 東京都リハビリテーション病院長 熊谷 修 人間総合科学大学教授
2	7月31日(土) 三重／津地区医師会館	根岸 春夫 中部大学教授	星 清子 尚綱学院大学准教授 太田 博昭 国際医療福祉大学教授
3	8月31日(火) 徳島／フレア徳島	戸塚 護 東京大学院准教授	二川 健 徳島大学大学院医学部教授 杉山 みち子 神奈川県立保健福祉大学教授
4	10月30日(土) 滋賀／ピアザ淡海	大日向 耕作 京都大学大学院准教授	村田 光範 こどもの城クリニック院長 竹内 富貴子 女子栄養大学講師
5	11月 7日(日) 愛媛／愛媛看護研修センター	八村 敏志 東京大学大学院准教授	伊木 雅之 近畿大学医学部教授 佐藤 秀美 日本獣医生命科学大学非常勤講師
6	11月18日(木) 奈良／奈良県産業会館	玖村 朗人 北海道大学大学院教授	岡田 知雄 日本大学医学部教授 塚原 典子 新潟医療福祉大学准教授
7	12月11日(土) 愛知／通信ビル	田辺 創一 広島大学大学院准教授	柴田 博 人間総合科学大学教授(医師) 石田 裕美 女子栄養大学教授
8	2月 5日(土) 神奈川／相模女子大学	仁木 良哉 北海道名誉教授 酪農学園大学特任教授	石橋 英明 伊奈病院整形外科部長 多田 由紀 東京農業大学助教 小山 浩子 管理栄養士フードコーディネーター
9	3月 5日(土) 宮崎／宮崎県総合保健センター	六車 三治男 宮崎大学教授	福岡 秀興 早稲田大学教授(医師) 田中 喜代治 筑波大学大学院教授 小山 浩子 管理栄養士フードコーディネーター

## 2. 牛乳・乳製品の科学的効用の広報

■乳幼児期の食育に携わる幼稚園教諭に、牛乳・乳製品の効用について情報提供した。

### 牛乳市民講座の内容

No.	開催日・場所	基調講演者	パネリスト 医師	パネリスト 栄養学者
1	6月13日(土) 名古屋市 テレビアホール	松田 幹 名古屋大学大学院教授	柴田 博 人間総合科学大学教授 元東京都老人研究所副所長	廣田 孝子 京都光華女子大学教授
2	1月22日(土) 大阪市 中央公会堂	齋藤 忠夫 東北大学大学院農学研究科教授	渡邊 昌 生命科学振興会理事長 前国立健康・栄養研究所理事長	田中 司朗 京都大学医学部助教
3	2月11日(金) 東京 有楽町朝日ホール	清水 誠 東京大学農学生命科学研究科教授	宮崎 滋 通信病院副院長	上西 一弘 女子栄養大学教授

### (6)牛乳・乳製品摂取とメタボリックシンドロームに関する横断的研究結果の発表



発表資料

平成20年度から牛乳・乳製品状況とメタボリックシンドロームの関係について検討を行うため、「食生活、生活習慣と健康に関する調査」を実施し、牛乳・乳製品摂取量が多いほどメタボリックシンドロームの有病率が少ない等の解析結果が日本栄養・食糧学会誌(63(4),151-159,2010)に掲載された。このことについて8月、折茂肇健康福祉大学学長及び上西一弘女子栄養大学教授から一般紙、医療・健康業界誌、食糧関係紙誌、酪農乳業紙誌等に対し記者発表を行った。

### (7)別冊メディカル朝日の発行



別冊メディカル朝日

全国の医師に対し、牛乳・乳製品摂取とメタボリックシンドロームに関する横断的研究の成果を中心に、同研究を行ったメンバーである3氏によりメタボリックシンドロームとの関連から、①メタボリックシンドロームに関する現状、②牛乳・乳製品摂取がメタボリックシンドロームに及ぼす効果、③牛乳・乳製品のメタボリックシンドローム抑制メカニズム、④高齢者における牛乳・乳製品摂取のメリットを内容とした情報誌メディカル朝日(3月号)別冊を8万部配布した。

この冊子は、乳業メーカー社員、栄養士等の教書として使用している。

### (8)乳幼児期の食育リーダー養成講座



養成講座

平成20年度からの3カ年事業として「乳幼児期の食育リーダー養成講座」を実施してきた。最終の平成22年度は東京、仙台の2会場で乳幼児期の食育に携わる者(主として保育園の栄養士、保育士及び幼稚園教諭)を対象に開催した。

当該講座は乳幼児期の食育と牛乳教育に必要な知識と技能をオピニオンリーダーとして身につけ、その活動を広める目的で実施してきた。

平成22年度の講座修了者は2会場(東京39名、仙台37名)合計で76名、3カ年合計で211名が講座を修了した。加えてテキスト講座事例集冊子を作成し、活動頒布に活用する。

### 3. 広報・広告活動

■牛乳の日、牛乳月間を通じて牛乳・乳製品の消費、普及の推進を図った。

#### (1)牛乳・乳製品の消費、普及の推進

牛乳乳製品の効用の研究、エビデンスの集積(委託研究・特定研究) 2. 海外市場実証調査 3. 牛乳の科学的効用の広報、伝達(各種セミナー等) 4. イベント等(牛乳の日、牛乳月間の旗振り役等)を中心課題として、オピニオンリーダーに牛乳の新たな価値を理解してもらい、牛乳・乳製品摂取の必要性、有用性について普及・啓発に取り組んだ。

#### 「牛乳の日」「牛乳月間」



牛乳の日 ロゴ



「牛乳の日」記者会見

「牛乳の日」、「牛乳月間」を制定して3年目。Jミルクは関係団体の旗振り役として位置付けられ、事業を実施した。

会員による特別工場見学の実施では、全国の乳業メーカー45企業、67の製造工場が参加した。

残念ながら、口蹄疫の関係で生産者団体による酪農教育ファームやオープンキャンペーンの夏休み親子酪農体験の実施は見合わされたが、流通での普及啓発活動として、165社、5,091店舗の牛乳売り場でリーフレットの配布やアイキャッチャーの取り付けを実施することができた。

PR施策として、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞はじめ地方の有力14紙に広告展開を行い、地方の関係団体による事業推進の応援施策を実施した。

会員による各種セミナーが実施されたが、Jミルクにおいても、牛乳月間の期間中に「メディアミルクセミナー」や「牛乳市民講座」を開催し牛乳の優れた特徴等有用性について、啓発活動を行った。

全国の各団体が6月の牛乳月間に合わせて、会員による「牛乳月間」イベントが開催された。イベント開催の都道府県団体数は29県、58会場となり(前年比29%の増加)。イベント等の自粛傾向があった中、大きな広がりをみせた。

#### カレンダー等の制作・配布



2011ミルクカレンダー

#### ミルクカレンダー

宅配牛乳利用者等に対する配布を目的とした、ミルクカレンダー「ミルクな気持ち」を制作し、各県協会等を通じて125万部(前年比61%)を配布、317万部(前年比112%)を斡旋した。カレンダーとしての基本機能を維持、かつ季節性、実用性も追求しつつ、家庭での定番料理となり得る牛乳活用レシピ提案を実施した仕様を目指した。



2010夏号

2010秋号

2010冬号

2011春号

#### ほわいと

消費者、オピニオンリーダー、専門家にも好評の季刊誌「ほわいと」を4回、各23,000部発行。記事はすべてHPでも公開した。

### 3. 広報・広告活動

■一般消費者の参加による料理コンクールで、牛乳・乳製品の消費拡大を図った。

#### 「牛乳でメタボ対策」の普及啓発 資料の作成・配布

「牛乳でメタボ対策」リーフレット



「牛乳乳製品摂取とメタボリックシンドロームの関係」について、Jミルクでは、平成22年8月に記者発表会を実施したが、その内容について業界関係者や一般消費者むけに分かりやすく伝えるため、普及啓発資料を10万枚作成し2月1日に、会員各位へ配布した。話題性もあり、かつてない反響があり、追加の配布希望が続いている。

#### 牛乳・米粉飲食普及プロジェクト 事業

「教育フォーラムin品川(小中一貫校荏原学園)」(平成23年1月20日)で、教諭、栄養士、栄養教諭96名の参画を得て、食育・牛乳教育事例集講義を米粉普及とタイアップして実施、牛乳普及の社会的意義の啓発を実施した。終了後、日本教育新聞社発刊の2月20日付日本教育新聞(週刊24万部)にて記事化、下段に「牛乳とメタボの関係」の広告を掲載し、相乗効果を狙った。

### (2)牛乳・乳製品利用料理コンクール



最優秀賞(農林水産大臣賞)「もっちり牛乳餃子」

8月～10月にかけて地方協会にて「牛乳・乳製品利用料理コンクール」を実施、全国総数で応募人数は8,829名、作品数8,929点。

11月7日(日)、地区代表40名による第31回牛乳乳製品利用料理コンクール全国大会を、東京池袋の武蔵野調理師専門学校で開催。

最優秀賞(農林水産大臣賞)「もっちり牛乳餃子」はじめ優秀作品5品は、ホテルインターコンチネンタル東京ベイ(東京・竹芝)において、期間限定でメニュー化され、大好評であった。

また、優秀作品の一つが、量販店「マルエツ」の5店舗で「マルエツキッチンイーとびあ」としてデモンストレーション紹介され、料理レシピの実演紹介が行われた。

さらに、上位3作品が、江上料理学院にてミルク料理教室が開催され、入賞作品を作る料理講習会が開かれた。



ホテルインターコンチネンタル  
東京ベイでメニュー化



秋田県



長野県



神奈川県



マルエツ キッチンイーとびあ  
でのデモンストレーション



山口県



福岡県



長崎県

#### 地方協会でのコンクール



入賞作品レシピ集

## 4. 学校給食関連

■児童への食育に携わる栄養教諭に、牛乳・乳製品の効用について情報提供した。

### (1) TOSS牛乳教育への取り組み



牛乳教育セミナー(東京)

小中学校の教諭及び栄養教諭・学校栄養職員を対象に札幌、東京、大阪の3カ所にて第11回～13回の食育・牛乳教育模擬授業セミナーを開催した。平成22年度の参加者は397名(札幌102名、東京128名、大阪157名)、累計で2,070名となった。

模擬授業を活用する小中学生向け牛乳教育授業実施に向け牛乳教育テキストの配布数は71,520人分に達した。同時に教諭及び栄養教諭・学校栄養職員向けに牛乳への科学的利用促進根拠を明示した「情報パンフレット、ミルミル分かる！ミルクの話」を配布し、授業現場での活用を図った。

### (2) 学校給食の牛乳料理講習会・研修会の開催



牛乳料理講習会



効果測定報告

栄養教諭・学校栄養職員及び給食調理員を対象とした学校給食用牛乳料理講習会を全国7ヶ所、209名の参加を得て開催、講習会2日目は乳業工場の現地研修を併せて行った。(口蹄疫のため例年実施してきた牧場視察は中止とした。)本年度は研修参加者に事業効果測定のための追跡アンケート調査を実施し、伝達講習実施率60%、牛乳料理採用意向は70%と高いものの「大規模調理施設により、アレルギー児童対応」等、具体的な障壁解決が困難である比率も80%と高く、容易にメニュー拡大ができない実態が明確となった。

### (3) HACCPに準ずる衛生管理助言事業

安全で品質の高い国内産牛乳を学校給食用に供給するため、学校給食用牛乳供給事業実施主体が実施するHACCPに準ずる衛生管理助言事業に係る特定経費の1/2を補助する事業を展開した。全国47事業実施主体の内26の事業実施主体にて対応を実施した。

### (4) 学乳供給事業実施主体への活動支援事業

全国45都道府県の事業実施主体(岡山、沖縄県を除く)に対して助成を実施した。

### (5) 学校給食用牛乳供給支援事業

離島、山間僻地等条件不利地域での学乳配送費等の保護者負担額の軽減の定着を目的とした事業を北海道で実施した。

### (6) ホームページ向け資材等の拡充

学乳スクエア内「食育指導サポーター」の教材用素材を拡充した。

### (7) セミナー等向け資材の提供

教諭、栄養教諭及び学校栄養職員を対象としたセミナー向け啓発パンフレット「ミルミル分かる、ミルクの話」を追加増刷した。当該パンフは牛乳に関する人間の体に及ぼす影響について科学的根拠に基づき説明しているもので学乳事業展開に活用した。

セミナー向けパンフレット



## 5. 酪農乳業の共同の取り組みと情報の共有化

■ホームページを活用して酪農乳業に関する情報の共有を図った。

### (1)生乳需給見通しの策定・公表及び情報の共有化



生乳需給見通し公表ページ

23年度の生乳の計画生産対策及び生乳取引等に資するため、「23年度生乳需給見通し」及び課題について策定・公表し、生処の共通認識の醸成に努めた。

酪農と乳業の的確かつ円滑な牛乳需給調整を支援するため、特に、最需要期と余乳発生期に合わせ、短期的な生乳需給見通しを策定・公表。併せて、その需給状況を踏まえた酪農乳業の対応課題も整理・公表し、生処の需給情報共有化の促進を進めた。

需給見通しを保管する情報として牛乳POSデータによる小売価格動向、乳業市乳販売担当者・乳製品販売担当者との情報交換、更には乳製品のエンドユーザー（製菓製パン、アイスクリーム乳業者等）に直接ヒヤリングを実施し乳製品消費の意識を調査し、需要量見通しを補足する情報収集に努めた。

わが国の生乳需給構造の長期的な変化に対する業界における共通認識を得る観点から、中長期的な生乳需給状況に関する検討を継続している。22年度においては生乳生産量・飲用需要量の予測モデルを検討決定する。23年度以降にはそのモデルを使って需給予測を行い課題の整理と提言の検討を行う。

### (2)需要期・不需要期対応

需給が急速に緩和する傾向の中で、特に不需要期（年末年始期、春休み期）の処理不可能乳発生が危惧される状況となったため、需給調整問題（余乳問題）について生処の関係者で構成する検討会議を開催し、処理の予測と課題の整理をして円滑な余乳処理をめざした。

### (3)原料乳取引の推進



酪農乳業レポート2011

合理的かつ円滑な価格形成と公正な生乳取引に資するため、価格形成フォーミュラに基づく「生乳生産費や乳業者支払可能乳代の変化率算定プログラム」に活用する各種データを定期的に更新しホームページを通じて提供した。

また、22年度の生乳取引をめぐる各種情報を整理した「酪農乳業レポート2011」をホームページで公開した。

## 6. 酪農乳業の共同の取り組みと情報の共有化

■酪農乳業が一体となり、ポジティブリスト制度、生乳検査精度管理の推進に取り組んだ。

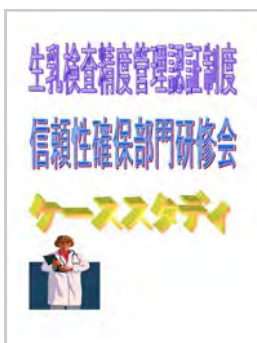
### (4) ポジティブリスト制度に対する酪農乳業の一体的取り組み



ポジティブリスト制度のページ

18年5月に施行されたポジティブリスト制度に酪農乳業が的確に対応し消費者の信頼を確保できるよう、引き続き酪農乳業が一体となった取り組みを行った。農薬等の使用実態調査は過去3回の結果から酪農家が使用する農薬等はほぼ固定されているため、調査は隔年に実施することとし22年度は実施せず。生産者団体においては、重要項目の記帳記録率100%を目指す活動に加えて、搾乳器具に使用する殺菌剤の使用実態調査と使用自粛の指導も同時に実施され、記録率100%は未達成であったが搾乳器具の殺菌剤の使用は全ての酪農家が自粛し塩素剤等に切り替えた。これらの安全管理システムが的確に機能していることを確認するため、農薬等の残留に係る定期的な検査(モニタリング)を実施することとしており、22年度は生乳生産段階における農薬等の使用実態(中酪20年度調査)を踏まえ、都府県で13物質、北海道では6物質の検査を22年11月～12月に行った。但し酪農家の使用農薬のほとんどは除草剤であったため検査対象より除いた。

### (5) 生乳検査精度管理認証制度の運営と効率的検査体制に向けた取り組み



ケーススタディ

#### 1. 認証制度の運営

生乳検査の公正性および信頼性の確保は合理的生乳取引には不可欠であるが我が国には、生乳検査精度を確保するための全国的な体制整備は充分とは言えず、外部機関により第三者的に検査精度を評価するシステムがなかった。このため当協会と(財)日本乳業技術協会と協同して生乳検査精度認証制度を立ち上げた。平成19年度より生乳検査精度管理委員会を中心に(財)日本乳業技術協会と連携して、生乳検査マニュアル、精度管理マニュアル、認証規程検討し21年10月に策定し22年3月に第1回認証審査を行い第1回の認証を行った。22年度においては上期に第2回審査、下期に第3回認証審査を実施し、23年4月1日までの累計認証数は27の検査施設・4検体採取組織で合計31ヶ所の認証となる。

認証規程検討委員会を開催し、認証規程の一部改訂を実施した。

#### 2. 検査精度向上対策

- ①信頼性確保部門責任者研修会の実施(認証取得施設の責任者を対象に具体的な点検方法)
- ②生産者団体・乳業者・検査協会等の技術者連絡会の開催 69名  
検査精度に関して解決すべき課題の整理の協議(生乳協の技術者が一堂に会しての会合は初めての取り組み)

#### 3. 効率的検査体制に向けた課題整理

- ①取引検査実態調査((財)日本乳業技術協会が調査)
- ②調査結果を基に効率的検査体制に向けた課題の整理をする  
中央検討会において全国の課題の整理  
1地域における課題の整理(東海地区)



信頼性確保部門の役割

## 6. 酪農乳業の共同の取り組みと情報の共有化

■ 全国の会員に対し、ブロック説明会を通じてJミルク運営に対する意見集約を行った。

### (6) 乳製品取引市場の運営



乳製品取引市場

乳製品の適正な価格形成及び乳製品需給に係る的確な情報の提供に資する観点、及び取引市場の効率的かつ透明性の高い運営を図るため、ホームページ上でのインターネット入札システムを運営した。22年度は、独立行政法人農畜産業振興機構によるカレントアクセス分に対応した乳製品取引市場を13回開設した。

### (7) 集約的かつ実践的な組織活動の実施



ブロック説明会

「中長期課題検討分科会」では中長期的生乳需給見通しを検討するための飲用需要予測モデルと生乳生産予測モデルを開発し、23年度には中長期飲用需要予測量を元に生乳生産、需給調整に関する課題を整理しその課題に対する提言を検討する予定である。

各会員等のJミルク運営に関する意見集約や、事業成果の普及を図るための「ブロック説明会」を全国7地区で開催した。

その他、各団体の要請に応え形で需給見通しやJミルクの活動全体に対する地域段階においても事業説明を実施した。

### (8) ホームページ

#### サイト運営・アクセス状況



Jミルク公式Twitter



Jミルクホームページ



酪農乳業情報ページ

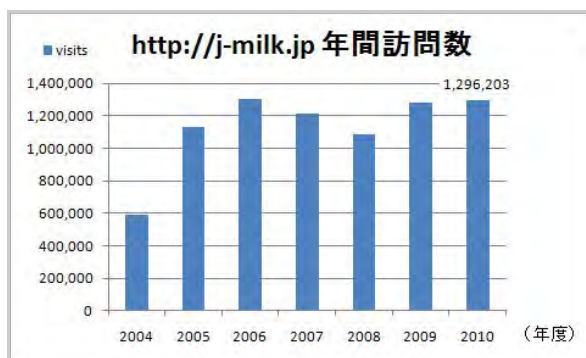
消費者向け、業界向け、拠出者向けサイトを設けた。

消費者向けサイトでは、新たにTwitter投稿機能を実装した。また、昨年度に引き続き牛乳市民講座や地方協会のイベント開催情報などを公開した。

業界向けサイトでは、需給情報やポジティブリストに関わる情報を随時公開した。また、飲用乳の小売動向情報として、日経POSデータ、インテージPOSパネル調査等を公開した。

平成22年度は、1日あたり約2万4千ページビューであった。

また、ページビューとともに、ユニークユーザー数も増加傾向にある。



## 会 員 電 話 番 号

正会員(25)					
(社)中央酪農会議	03-3219-2611	四国地区乳業協会	089-966-5400	静岡県牛乳普及協会	054-274-0230
全国農業協同組合連合会	03-6271-8265	九州牛乳協会	092-641-7843	愛知県牛乳普及協会	052-957-3005
全国酪農農業協同組合連合会	03-5931-8001	賛助会員(45)		滋賀県牛乳普及協会	077-553-4951
(社)日本乳業協会	03-3261-9161	北海道牛乳普及協会	011-222-0233	京都府牛乳普及協会	075-841-4755
(社)全国農協乳業協会	03-5577-6151	青森県牛乳普及協会	017-729-8631	大阪府牛乳普及協会	06-6538-3066
全国乳業協同組合連合会	03-5275-5921	岩手県牛乳普及協会	019-653-3795	兵庫県牛乳普及協会	078-361-8145
(社)全国牛乳流通改善協会	03-3836-4431	宮城県牛乳普及協会	0229-34-2366	奈良県牛乳普及協会	0745-43-0191
全国牛乳商業組合連合会	03-5256-7045	秋田県牛乳普及協会	018-816-0155	和歌山県牛乳普及協会	073-465-4181
ホクレン農業協同組合連合会	011-232-6187	山形県牛乳普及協会	023-634-8150	鳥取県牛乳普及協会	0858-53-0725
東北生乳販売農業協同組合連合会	022-212-2130	福島県牛乳普及協会	0243-33-1101	島根県牛乳普及協会	0852-31-3609
関東生乳販売農業協同組合連合会	03-5844-3061	茨城県牛乳普及協会	029-227-4740	岡山県酪農乳業協会	0868-54-1101
北陸酪農農業協同組合連合会	025-240-7080	栃木県牛乳普及協会	028-664-3611	広島県牛乳普及協会	0824-64-2211
東海酪農農業協同組合連合会	052-219-7661	群馬県牛乳普及協会	027-220-2161	山口県酪農乳業協会	0832-87-2301
近畿生乳販売農業協同組合連合会	06-6130-5711	埼玉県牛乳普及協会	048-583-7112	Jミルク徳島	088-674-0401
中国生乳販売農業協同組合連合会	086-236-3371	千葉県牛乳普及協会	043-247-2952	(社)香川県畜産協会 (企画管理部)	087-825-0284
四国生乳販売農業協同組合連合会	087-822-8151	東京都牛乳普及協会	042-381-1362	愛媛県牛乳普及協会	089-966-5400
九州生乳販売農業協同組合連合会	092-432-6021	神奈川県牛乳普及協会	045-761-1807	高知県牛乳普及協会	088-880-5363
(社)北海道乳業協会	011-251-2561	新潟県牛乳普及協会	025-240-7080	福岡県牛乳普及協会	092-641-7843
東北乳業協議会	022-222-5225	富山県牛乳普及協会	0766-86-3684	佐賀県牛乳普及協会	0952-71-9644
関東甲信越ブロック乳業協議会	03-3264-4385	石川県牛乳普及協会	076-276-8422	長崎県牛乳普及協会	0975-22-3356
東海北陸ブロック乳業者団体協議会	052-973-1290	福井県牛乳普及協会	0776-54-0205	熊本県牛乳普及協会	096-360-6250
近畿ブロック乳業協議会	06-6534-0185	山梨県牛乳普及協会	055-275-6145	大分県牛乳普及協会	097-586-4222
中国ブロック協議会	082-568-4422	長野県牛乳普及協会	026-236-3670	宮崎県牛乳普及協会	0985-31-2128
		岐阜県牛乳普及協会	058-273-1111	鹿児島県牛乳普及協会	099-255-3185



社団法人 日本酪農乳業協会

〒104-0045 東京都中央区築地4丁目7番1号

築地三井ビル5階

電話 03-6226-6351

FAX 03-6226-6354

Email info@j-milk.jp

ホームページもご覧下さい

<http://j-milk.jp>